

令和7年度

「運営に関する計画」
最終反省

(様式1)

総括シート

大阪市立柴島中学校

令和 8 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- (1) 校内調査の結果、「先生はイジメなど私たちが困っていることについてよく対応してくれる。」の肯定的回答は、過去3年間の平均が89.7% (前年度89.7%) である。また、「命の大切さについて学ぶ機会が多い。」の肯定的回答は、過去3年間の平均93.3% (前年度94.0%) である。
- (2) 校内調査において、「授業はわかりやすく楽しい」が同様に、88.1% (前年度91.4%) である。主体的・対話的で深い学びにつながる「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。」の回答は、過去3年間の平均73.1% (前年度79.3%) である。
- (3) 校内調査において、「1日4時間以上、スマートフォンやタブレット、ゲーム機等で動画を見ている」の回答は、過去3年間の平均は53.1% (前年度54.3%)、「1日4時間以上、スマートフォンやタブレット、ゲーム機等で通話、メール (SNSを含む)、インターネットをしている」の回答は、過去3年間の平均は52.6% (前年度56.9%) である。
- (4) 校内調査において、「読書は好きである」という質問の回答は、過去3年間の平均は69.7%で前年度は74.1%である。また、「自分で計画を立てて学習に取り組んでいる」という質問の回答は、過去3年間の平均は71.4%で、前年度76.7%である。
- (5) 全国学力・学習状況調査において昨年度は全国平均に達したが、近年の結果は、全国平均を下回っていた。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- (1) 令和7年度末の校内調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。
- (2) 校内調査において、不登校生徒の在籍比率を、毎年、前年度より減少させる。
- (3) 校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。
- (4) 令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を98%以上にする。
- (5) 令和7年度末の校内調査における「生徒会・各委員会・係活動に関心を持ち積極的に参加している」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を87%以上にする。
- (6) 令和7年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度と同数以下にする。
- (7) 令和7年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の人数を1名以下にする。
- (8) 令和7年度末の校内調査における「先生はイジメなど私たちが困っていることについてよく対応してくれる」の肯定的回答を92%以上にする。また「命の大切さについて学ぶ機会が多い」も同様に93%以上にする。
- (9) 令和7年度末の校内調査における「1日4時間以上、携帯電話やスマートフォン、タブレットで通話やメール(SNSを含む)、インターネットをしている (ゲームをする時間は除く)」という質問において、肯定的回答の割合について、50%以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- (1) 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。
- (2) 令和7年度中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も、毎年、前年度より向上させる。
- (3) 令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル (英検3級) 相当以上の英語力を有する中学3年生の割合 (4技能) を53%以上にする。

- (4) 令和7年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を30%以上にする。
- (5) 令和7年度の中学生チャレンジテストにおける対府比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も、毎年、前年度より向上させる。
- (6) 令和7年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も、毎年、前年度より減少させる。
- (7) 令和7年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も、毎年、前年度より増加させる。
- (8) 令和7年度の校内調査における「悩みなどの相談にのってくれる仲間がいる。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を91%以上にする。
- (9) 令和7年度の『新体力テスト』における総合評価(A～D)で、C以上の割合を男女とも73%以上にする。
- (10) 令和7年度の校内調査で「読書は好きである」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上に、「計画を立てた学習をしている」については73%以上にする。
- (11) 生徒の授業内容をわかろうとする態度をみていく。令和7年度の学校アンケートの「授業のわからないことについて、先生に質問しやすい」について肯定的に回答する生徒の割合を87%以上にする。
- (12) 令和7年度の校内調査で「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」という質問の肯定的回答する生徒の割合を73%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- (1) 令和7年度の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- (2) 令和7年度の教職員の時間外勤務時間を、全市の校種別の平均時間以下にする。

【その他 柴島中学校教育目標】

「創意と工夫にあふれる教育の推進 ～主体的に学び続ける生徒の育成～」を本校の教育目標として掲げ

- (1) 「自他への思いやりのある生徒」
 - (2) 「意欲的に学習に取り組む生徒」
 - (3) 「心と体の成長を図る生徒」
- を育てたい生徒像とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」

- (1) 年度末の校内調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を76%以上にする。(R6 75.9%)
- (2) 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 9.1%)
- (3) 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R6 62.5%)
- (4) 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を98%以上にする。
- (5) 年度末の校内調査における「生徒会・各委員会・係活動に関心を持ち積極的に参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を昨年度以上 (R3 70.3% R4 74.0 R5 85.0% R6 81.9) にする。
- (6) 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度(0)と同数以下にする。
- (7) 年度末の校内調査において、不登校生徒の総数を前年度(12人)より減少させる。

- (8) 年度末の校内調査の「先生はイジメなど私たちが困っていることについてよく対応してくれる。」の肯定的な回答を前年度以上（前年度 89.7%）にする。また「命の大切さについて学ぶ機会が多い。」も同様に前年度以上（R6 94.0%）をめざす。
- (9) 年度末の校内調査の「1日4時間以上、携帯電話やスマートフォン、タブレットで通話やメール(SNSを含む)、インターネットをしている（ゲームをする時間は除く。）」という質問において、肯定的回答の割合について、50%以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」

- (1) 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 41%以上にする。(R6 39.7)
- (2) 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- (3) 中学生チャレンジテストにおける対府比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- (4) 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
- (5) 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。
- (6) 年度末の校内調査における「悩みなどの相談にのってくれる仲間がいる。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（90.5%）より増加させる。
- (7) 『新・体力テスト』における総合評価(A～D)で、C以上の割合を男女とも 70.0%以上にする。
- (8) 年度末の校内調査における「自分で計画を立てて、学習に取り組んでいる」について前年度（76.7%）より増加させる。
- (9) 生徒の授業内容をわかろうとする態度をみていく。年度末の校内調査「授業のわからないことについて、先生に質問しやすい」について肯定的に回答する生徒の割合を前年度（83.6%）より増加させる。
- (10) 年度末の校内調査の「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」という質問の肯定的回答を 73%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」

- (1) 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする
- (2) 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を35%以上にする。(R6 35%)
- (3) 校内調査において、「日々の学校の活動の中で、学習者用端末を活用している」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

【その他 柴島中学校教育目標について】

- (1) 「自他への思いやりのある生徒」
校内調査「学校に行くのが楽しい」の項目の肯定的回答を80%以上にする。(R5 73.3%、R6 86.2%)
- (2) 「意欲的に学習に取り組む生徒」
校内調査「授業はわかりやすく楽しい」の項目の肯定的回答を88%以上にする。(R5 86.7%、R6 91.4%)
- (3) 「心と体の成長を図る生徒」
校内調査「自分にはよいところがあると思いますか」の項目の肯定的回答を75%以上にする。(R5 77.5%、R6 73.3%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」

- (1) 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な意見は98.4%、最も肯定的な意見は84.0%で、達した。 ○
- (2) 2月末で不登校生は12名、不登校生徒の在籍比率は8.8%で前年度より減少した。(R5 10.7%、R6 9.1%) ○
- (3) 前年度不登校生徒7名うち、進路相談や行事等で登校日が増えたのは2名で、改善の割合は2.9%でした。R5年度、前年度より減少した。(R5 50%、R6 62.5%) ×
- (4) いじめにつながるようなトラブルや学校で認知したいじめについて、すべて早期の対応で解消もしくは、ほぼ解消の状態に至っている。 ○
- (5) 「生徒会・各委員会・係活動に関心を持ち積極的に参加している」で、肯定的な意見が78.4%となり、R3、R4を上回ったが、R5、R6を下回り昨年より3.5ポイント下がった。
(R3 70.3% R4 74.0% R5 85.0% R6 81.9%) ×
- (6) 暴力行為を複数回行う加害生徒数は、前年度(0)と同数の0であった。 ○
- (7) 不登校生徒の総数は11人で前年度(12人)より減少した。 ○
- (8) 「先生はイジメなど私たちが困っていることについてよく対応してくれる。」の肯定的な回答は、90.4%で前年度を上回った。(R6 89.7%) ○ また、「命の大切さについて学ぶ機会が多い。」の肯定的な回答は、97.6%で、前年度を上回った。(R6 94.0%) ◎
- (9) 「1日4時間以上、携帯電話やスマートフォン、タブレットで通話やメール(SNSを含む)、インターネットをしている(ゲームをする時間は除く)。」で、肯定的回答は76.0%で、一昨年、前年よりは増加し、50%以下にならなかった。(R5 68.3%、R6 56.9%) ×

未来を切り拓く学力・体力の向上】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標」

- (1) 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な意見は89.6%、最も肯定的な意見は59.2%で、達した。 ○
- (2) 中学生チャレンジテスト 国語、数学の平均点の対府比 同一母集団の経年的比較
【中3】 国語 R6(2年)1.18→R7(3年)1.18 - 数学 R6(2年)1.19→R7(3年)1.12 ↓
【中2】 国語 R6(1年)1.08→R7(2年)1.03 ↓ 数学 R6(1年)1.08→R7(2年)1.03 ↓
中3国語で前年度と同じであったが、中3数学・中2国語、数学で前年度を下回った。×
- (3) 中学生チャレンジテストにおける対府比を、同一母集団の経年比較
【中3】 R6(2年)1.16→R7(3年)1.12 ↓ 【中2】 R6(1年)1.08→R7(2年)1.00 ↓
中2、中3ともに、前年度を下回った。
- (4) 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較
3年国(R6)11%→(R7)9% ↓ 社(R6)19%→(R7)17% ↓ 数(R6)16%→(R7)9% ↓
理(R6)14%→(R7)17% ↑ 英(R6)22%→(R7)26% ↑
2年国(R6)7%→(R7)15% ↑ 数(R6)5%→(R7)28% ↑ 英(R6)12%→(R7)37% ↑
3年国社数では前年度より減少したが、3年理英と2年国数英では前年度より増加した。 ×

- (5) 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較
 3年国 (R6)59%→(R7)51% ↓ 社(R6)32%→(R7)37% ↑ 数(R6)51%→(R7)34% ↓
 理(R6)57%→(R7)51% ↓ 英(R6)65%→(R7)37% ↓
 2年国(R6)37%→(R7)33% ↓ 数(R6)39%→(R7)41% ↑ 英(R6)20%→(R7)26% ↑
 3年は社の1科で、2年は数英の2科で前年度より増加した。 △
- (6) 「悩みなどの相談にのってくれる仲間がいる。」で肯定的な回答が91.2%となり、前年度(90.5%)より増加。 ◎
- (7) 『新・体力テスト』における総合評価(A～D)で、C以上の割合が
 1年男37.5% 女88.0% 2年男66.7%、女85.0% 3年男53.3% 女83.3%
 男平均53.0% 女平均85.7% 全学年69.0%となった。女子は各学年で70.0%以上には達したが、男子は各学年で70.0%に達しなかった。全学年では、70.0%に1ポイントなかった。
- (8) 「計画を立てて、学習をしている」で肯定的な回答が78.4%で、前年度(76.8%)より増加した。 ○
- (9) 「授業のわからないことについて、先生に質問しやすい」肯定的な回答が86.4%で前年度(83.7%)より増加した。 ○
- (10) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」で肯定的な回答が79.2%で前年度(79.3%)より1ポイント下がったが、73%以上に達した。 ○

【学びを支える教育環境の充実】

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標」

- (1) 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が1月時点で119日で、年間授業日142日に対して83.8%となり、50%以上に達した。 ◎
- (2) 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が47.62%(1月時点)で、35%以上に達成した。(R5 47.8%、R6 35%) ○
- (3) 「日々の学校の活動の中で、学習者用端末を活用している」と回答する生徒の割合が99.2%で80%以上に達した。 ◎

【その他 柴島中学校教育目標について】

- (1) 「自他への思いやりのある生徒」
 「学校に行くのが楽しい」で肯定的回答が81.6%で80%以上に達した。(R5 73.3%、R6 86.2%) ○
- (2) 「意欲的に学習に取り組む生徒」
 「授業はわかりやすく楽しい」で肯定的回答が91.2%で88%以上に達した。(R5 86.7%、R6 91.4%) ○
- (3) 「心と体の成長を図る生徒」
 「自分にはよいところがあると思いますか」で肯定的回答が88.8%で75%以上に達した。
 (R5 77.5%、R6 73.3%) ○

【まとめ】

落ち着いた学校生活の環境で様々な教育活動を通して、友だちと関わり、お互いを知り尊重する心を育て、自己肯定感、自他の尊重で、生徒の内面的な充実感の向上を進めている。

学習面では、授業規範が確立した中で、基礎学力の定着や生徒がやる気をもって学習できるように工夫していることの成果として、学力的(得点力)の上昇の兆しが見えている。一方、全校生徒数は少ないが、長期欠席の生徒の割合は依然として高く、不登校生、教室に入れない生徒、個別な指導の多様化に対応するなど、教員の業務負担などはまだ山積している。今年度の総括を活かし次年度の教育活動に取り組んでいきたい。

令和7年度

「運営に関する計画」

(様式2)

目標別シート

最終反省

大阪市立柴島中学校

令和8年3月

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった

年度目標

【3つの最重要目標】 目標1 安全・安心な教育の推進

【大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標】

担当	項目	2 学期			3 学期		
		達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
集育	1	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	日常の指導や関わりの中でいじめは許されないことを指導していく。	B	肯定的な回答は、98.4%あったが、最も肯定的な回答は84.%であった。	いじめについて考える日の取り組みや、人権教育を通していじめについて考える活動増やしていきたい。
集育	2	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	学年教員だけでなく、全職員で不登校生徒に関わっていく。	B	不登校生徒は今年度12人で、割合は8.8%となった。	次年度も多く職員で、不登校生徒に関わっていく。
集育	3	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	学年教員だけでなく、全職員で不登校生徒に関わっていく。	C	3年生の長欠生は5人、2年生は6人、1年生は3人となっており、改善されたとは言えない。	不登校生徒に関わり、少しでも学校に足を向くように対応していく。
集育	4	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	いじめアンケート、相談申告機能を引き続き確認していく。	B	いじめのアンケートには記入されていたが、早急に対応することができた。	各学年で今後もあらゆる機会に生徒を見守り、関係を深めていくよう努力する必要がある。
集育	5	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	委員会生徒の役割を明確にし、責任感を持つように指導していく。	B	肯定的な意見が78.4%であった。	次年度も委員会生徒が前に立ち、発表や報告ができる環境をつくる必要がある。
集育	6	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	複数回行った生徒は今のところいない。	B	複数回暴力行為を行った生徒は1名であった。	複数の先生で指導に入り、改善していく。未然防止のために、廊下等で巡視を徹底していく。
集育	7	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	現在12人で、2学期になってから増加した。	C	欠席数が30日を超えている生徒が14名で、昨年度より増加した。	全職員で不登校生徒にかかわり、少しでも登校ができるような環境を整えるように努力する。
集育	8	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	気づき次第、早急に対応する。	B	今年度の結果は90.4%であった。	引き続き全職員で指導していく。全校集会等で「いじめ」について話をしていく。
集育	9	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	スマホの使用時間は長くなっている傾向がある。集会等でスマホの時間を減らす呼びかけをしていく。	C	今年度結果は76.0%の結果であった。	目標には程遠く、目標の設定自体を見直す必要がある。継続的にスマホ等の指導は強く進めていく。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった

年度目標

【3つの最重要目標】 目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上

【大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標】

担当	項目	2学期			3学期		
		達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
教務	1	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	授業や学級活動で意見を交換する機会を増やし、互いの考えを認め合えるようにする。	A	「思う」と回答した生徒の割合は89.6%で目標を達成した。教科や学年の取組みなどで、対話する機会を増やすなかで、話し合いの質も向上していると考えられる。	話し合いの機会はこれまで通りに進めていながら、引き続き、教員の発問の工夫や話し合いが深まるようなサポートを行っていく。
教務	2	—	チャレンジテスト後に評価する。	丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。	B	3年国語1.18→1.18 数学1.19→1.11 2年国語1.08→1.02 数学1.08→1.03 昨年と比較すると、現状維持もしくは、下がっている。	来年度も丁寧な授業を心がけ、粘り強く生徒に向き合う指導を続ける。
英語	3	—	英語力テスト後に評価する。	4技能のバランス良い指導を行う。	B	10月17日実施のGTECの結果、割合は93%だった。	来年度も4技能のバランス良い指導を行う。
教務	4	—	チャレンジテスト後に評価する。	丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。	B	3年3科116.3→111.9 5科108.2→103.6 2年3科108.4→100.5 下降したものの、府平均は超えていた。	来年度も丁寧な授業を心がけ、粘り強く生徒に向き合う指導を続ける。
教務	5	—	チャレンジテスト後に評価する。	丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。	C	3年 10.8→11.4 2年 12.1→25.4 どちらの学年も前年度より減少させることができなかった。	7割を超える生徒が多数いる中で、基礎学力がなかなか定着しない生徒へのさらなる学習サポートが必要である。
教務	6	—	チャレンジテスト後に評価する。	丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。	C	3年 51.4→40.0 2年 38.1→37.2 どちらの学年も前年度よりも減少した。	基礎学力の定着に加え、発展的な問題にも対応できる学力を身に付けさせる必要がある。
集育	7	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	仲間だけでなく、教員も相談に乘れるような関係性を構築する。	B	アンケートの結果90.4%であった。	学年によってばらつきはあるものの、概ね良好な友人関係である。
保体	8	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	体を動かすことのメリットとともに楽しさを伝えていくようにする。	C	校内調査において、最も肯定的回答をした生徒の割合は54.4%、肯定的回答を含めると83.2%であった。3年生の割合が66.7%と一番高かった。	一年生が46.8%と半分にも満たしていないので、授業の中でも楽しさを引き出せるような授業展開をしていく。
保体	9	B	全体78.6%（男子71.1%、女子85.7%）	来年度もこの指標を達成できるよう体力向上に取り組んでいきたい。	B	2学期に評価済み	来年度も引き続き色んな運動を取り入れ、基礎体力を高めていくようにしていく。
教務	10	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	定期テストに向けて学習計画を立て、生徒が個々の目標に向けて取り組めるようにする。	A	肯定的な回答が78.4%と前年度から1.7ポイント上昇した。テスト計画表をしっかりとて、計画通り進めようとする生徒が増えてきている。	テスト結果を受け、自分の勉強方法について改善点を考え、次に活かせるよう指導していく。

教務	11	生徒の授業内容をわかろうとする態度をみていく。年度末の校内調査「授業のわからないことについて、先生に質問しやすい」について肯定的に回答する生徒の割合を前年度（83.6%）より増加させる。	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	教師側の一方的な授業にならないように心がけ、生徒が質問しやすい環境をつくる。	A	肯定的な回答が86.4%と前年度から2.8ポイント上昇した。特に、3年生は90.9%と高く、少人数学習の成果である。	来年度も引き続き少人数、習熟度別学習を行い、先生に質問しやすい環境が作れるよう努める。
教務	12	年度末の校内調査の「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」という質問の肯定的回答を肯定的回答を73%以上にする。	—	年度末の校内調査後に評価を行う。	一問一答だけでなく、生徒が自分で説明する機会を授業で増やす。	A	肯定的な回答が79.2%と目標値より6.2ポイント上回っている。特に学年が上がるほどポイントが高くなる傾向にある。	考えをまとめ、発表する力は、3年間で培われていくものであるため、今後もあらゆる場面で自己表現の機会を増やしていく。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった

年度目標

【3つの最重要目標】 目標3 学びを支える教育環境の充実

【大阪市教育振興基本計画に掲げる目標(施策目標)を達成するための年度目標】

担当	項目	2学期			3学期		
		達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
CIO	1 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。	A	生徒の8割以上が学習者用端末を活用した実績は8月終了時点で、58授業日中50日達成で86.2%である。	12月に学習者用端末の更新を控えている。大きく数値が落ち込まないように、今後も取り組みをしていく。	A	1月までの時点で、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、142日中119日で、年間達成率は83.8%であった。年度末でみて目標値50%を大きく上回る予想である。	在籍数が増えるので、機器の管理を含めて、学習活動において活用が円滑に実現できるようにする。
管理職	2 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を40%以上にする。(R6 35.0%)	B	勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が8月の時点で55%である。(昨年度8月時点は50%)	2学期以降は学校行事やテスト、進路指導など業務も増えるが、業務のスリム化や会議の時短を進める。	A	勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が47.62%(1月時点)で、35%以上に達成した。(R5 47.8%, R6 35%)	一年間の教育活動で、業務の多い時期には、業務の偏りのないように、業務担当や配置を見直していきたい。
CIO	3 アンケート「日々の活動の中で学習端末を活用している。」において、肯定的回答の割合を85%以上にする。	—	navimaやクラスルームを通じた課題や連絡を含めて端末を活用した教育活動ができています。	教育活動に限らずフォーラムを活用した行事の事前事後アンケートの実施は集計の負担の軽減も実現できる。積極的に活用していきたい。	A	アンケート「日々の活動の中で学習端末を活用している。」において、肯定的回答の割合99%であった。学校生活においてあらゆる場面で学習者用端末は生徒にとって1つのツールとなっている。	次年度以降も学習活動で活用できるように継続して取り組みを進める。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった

年度目標

【その他】 柴島中学校教育目標について

担当	項目	2学期			3学期		
		達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
教務	1 「自他への思いやりのある生徒」校内調査「悩みなどの相談にのってくれる仲間がいる」の項目の肯定的回答を前年度(90.5%)より向上させる。	—	年度末の校内調査後に評価する。	授業や行事を通してお互いの考えを認め合えるようにする。	A	肯定的な回答が91.2%と前年度から0.7ポイント上昇した。中学校での行事を前向きに取り組もうとする生徒が増えていると感じる。	次年度も事業、行事に前向きに取り組めるような、授業研究や学年経営に努める。
教務	2 「意欲的に学習に取り組む生徒」校内調査「授業はわかりやすく楽しい」の項目の肯定的回答を前年度(91.4%)より向上させる。	—	年度末の校内調査後に評価する。	丁寧でわかりやすい授業を心がけ、教材も工夫する。	B	肯定的な回答が91.2%と前年度から0.2ポイント下降した。しかし、1年生では肯定的な回答が96%を超えており、教員の授業研究と根気強く生徒に向き合う姿勢が要因であると考える。	来年度も肯定的な回答が90%を超えるよう、丁寧に生徒に向き合っていく。
教務	3 「心と体の成長を図る生徒」校内調査「自分にはよいところがあると思いますか」の項目の肯定的回答を前年度(73.3%)より向上させる。	—	年度末の校内調査後に評価する。	学校生活での学習や経験を通して、自分自身を認め、自己肯定感を高められるようにする。	A	肯定的な回答が88.8%と前年度から15.5ポイントも上昇した。各学年とも84%を超え、特に3年生は97.0%であった。勉強や行事を意欲的に取り組んだ結果が成果として表れ、自分に自信を持っている生徒が増えたと考える。	失敗しながらも成功体験を少しずつでも増やしていけるような授業、行事を考えていく。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった

9教科の目標と総括

		2学期			3学期		
担当	項目	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
国語	1	B	<p>全学年において、漢字小テストを定期的に行い、「知識・技能」の基礎・基本を身につける取り組みができています。</p>	<p>1年生においては、漢字の書き、2年生においては、漢字の読みの正答率が低いため、復習に取り組んでいきたい。</p>	B	<p>「知識・技能」の基礎・基本に力を入れた結果、チャレンジテストでは3学年とも大阪府平均を上回ることができた。</p>	<p>次年度も「思考・判断・表現力」の土台となる「知識・技能」という基礎・基本を大切にしたい。</p>
数学	2	B	<p>1・2年生では少人数分割授業または習熟度別少人数授業を行い、基礎・基本の定着を図った。また、3年生ではグループ活動とT・Tを行い、教え合うことで言語活動を活発にした。</p>	<p>今後は図形の単元に入っていき、少人数分割授業または習熟度別少人数授業を使い分けながら指導をしていく。</p>	B	<p>各学年で少人数分割授業、習熟度別分割授業を実施した。特に1,2年生では、1年間を通して少人数分割授業を行い、生徒へのきめ細かいアプローチを行った。また、言語活動については、授業の中で、自分の考えをまとめ、発表をする活動を行った。</p>	<p>少人数分割授業により、基礎・基本の定着に向けてのアプローチも必要だが、言語活動を活発にしていく授業をどのように進めていくか今後の課題である。</p>
英語	3	B	<p>全学年、デジタル教科書などのICTを活用しており、主体的に取り組む態度を養うための自己評価シートや単語の例文づくりなどの工夫をしている。</p>	<p>後期に向け、既習事項の復習も兼ねて、少人数・習熟度別授業を展開していく。</p>	B	<p>全学年、習熟度別少人数分割授業を行った。自分に合ったレベルを選択し、授業中熱心に取り組む様子が見て取れた。英語科独自の事後アンケートにおいても高い評価を得られた。</p>	<p>次年度も生徒の英語力を上げる工夫を取り入れ続けた。</p>
理科	4	B	<p>実験の時間を多くとることができている。</p>	<p>実験後の授業で、グループでの考察時間を多く取り、「考える力」を養っていく。</p>	A	<p>実験室で授業する時間を増やし、実験を多く実施できた。チャレンジテストの結果にも反映することができた。</p>	<p>次年度も引き続き、指導方法を考案していく。</p>
社会	5	B	<p>班活動を中心に協働学習を継続している。またnavimaの定期テスト対策は概ね定着、ラジオニュースの聞き取って書く活動も継続している。</p>	<p>個々への学習アプローチが弱くなりがちなので、個人への発問も取り入れる。</p>	B	<p>自由研究、反活動、navimaの活用、映像教材、NHKやさしいことばニュースの聞き取りなど、多角的な学びを提供できた。</p>	<p>最新情報を活用し、市民教育を視野に、自分の考えの言語化を狙い、プレゼン力の向上をはかる協働的学習の充実を目指す。</p>
音楽	6	B	<p>歌唱分野では、音量や発音を意識して曲想に合った表現を考えながら歌うこと、また、器楽分野（リコーダー）では、タンギングや息の入れ方を工夫し、曲に合った演奏を行うことができた。</p>	<p>創作分野に関しては、引き続き学習者用端末を活用していきたい。音楽が得意ではない生徒へのアプローチを丁寧に行っていきたい。</p>	B	<p>歌唱・器楽・鑑賞・創作分野の広い範囲で表現活動を行うことができた。器楽分野ではクラシックギターや打楽器を取り入れた授業を行うことができた。</p>	<p>音楽を苦手とする生徒や音楽は好きであるが読譜が苦手な生徒など、様々な生徒に対する声掛け・アプローチを更に工夫していく必要がある。</p>
美術	7	B	<p>制作に集中して取り組めるように、丁寧な制作することも定着しつつある。</p>	<p>自らの思考を制作に活かせるよう、きめ細かく指導していく。</p>	B	<p>想像力を働かせながら、具体的な形は資料やPCの画像を参考に、丁寧に描く習慣ができた。</p>	<p>考えて制作する力を、より充実させていきたい。</p>
技術	8	B	<p>技術分野では1年生、2年生において製作実習を行うことができた。</p>	<p>2学期以降も製作実習、プログラミングによる制御など、生徒たちが興味を持って臨めるように実施していきたい。</p>	B	<p>1年生「木材を材料とした材料加工実習」、2年生は「水耕栽培、ミニラジオ、リモコンカーの製作」に挑戦した。3年生「プログラミングによる簡単なゲーム作り」と実習を行うことができた。</p>	<p>完成した作品や学んだ知識技能を今後の生活の中で活用できるように取り組ませたい。</p>
家庭科	9	B	<p>各学年ともにグループ学習の形態で、実習を通じた技術の習得と共に、日常生活に活用できる知識と基礎技術の定着を図っている。</p>	<p>一人一人に合わせた教材の工夫に努めたが、より一層細やかな指導に努めていきたい。</p>	B	<p>実習を通して基礎的・体験的な知識を習得し、課題レポート等の作成では、家庭生活にも生かされる工夫ができた。また、校内外の発表の場で作品が評価された。</p>	<p>教材の選択と指導について、学年及び個々の生徒のレベルアップに、より細やかな指導に努める。施設設備の充実について、計画的に取り組む。</p>
保健体育	10	—	<p>年度末の校内調査後に評価する。</p>	<p>生涯スポーツを見つけられるような授業展開を目指していく。</p>	B	<p>日々の授業の中で生涯スポーツに触れ、長期休暇の課題でも生涯スポーツについて調べ、一人ひとりが自分が将来選択すると考えられるスポーツを見つけることができた。</p>	<p>来年度も三年間の中で、生涯スポーツの選択肢の幅が広がっていきけるような授業展開をしていく。</p>

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった

3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策

目標1 安全・安心な教育の推進

【施策① 安全・安心な教育環境の実現】

担当	取組内容	指標	2 学期			3 学期		
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
集育 1	いじめ・問題行動に対応する制度の活用 ・「学校安心ルール」の成案の実施・地域活動協議会など関係諸機関と協力し、児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができる環境の整備	・学校安心ルールの配付と指導を年間1回以上行う。 ・地域活動協議会との打ち合わせを月1回以上行う。	B	学校安心ルールについては、ホームページに掲載し各家庭へ周知を図った。青少年指導員とは頻りに打ち合わせを実施している。	学校安心ルールを適用しなくてもよい日常を目指して指導を続けていかなければならない。地域関係機関とは今後とも密接な連携をとっていきたい。	B	引き続き、青少年指導員とも交流を語り地域との連携を深めた。また、校内においても落ち着いて学習に取り組むこともでき、大きなトラブルも無かった。	重大な事案が発生してからの対応はもちろん必要であるが、そのような細やかな生徒対応・保護者対応を今後とも心掛けていく必要がある。
集育 2	不登校や児童虐待などの課題への対応 ・区役所子育て支援室などの連携を密にし、児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことができる環境を整備 ・専門家からの助言をもとに適切な支援を実施・指導助言を通じた生活指導体制の確立・強化	・学年の集団育成部を中心として不登校生徒の対応を週に1回以上行う。 ・専門家、関係諸機関と連携しながら、不登校生徒の減少をめざす。	B	登校しにくい生徒やヤングケアラーの疑いのある生徒については各学年ともかなりの頻度で家庭と連絡を取っている。また区役所子育て支援室・こサポネット・SSW・こ相・放課後デイサービス・サテライト・適応指導教室などともその都度関係を構築しながら、連携の強化に努めた。	登校の兆しが見えてきた生徒もいる半面、まったく変化の見られない生徒もいる現状をどう打破していくか、検討していく必要がある。関係諸機関とは今後も情報交換を密にしながら、連携を継続していきたい。	B	不登校生徒については関係諸機関との連携をとることができた。しかし多くの生徒が改善の方向に向かったとは言い難い。	関係諸機関においても、その生徒の心身に抜き差しならない状況が起こらないと機能しにくいのが現状である。虐待については解決が難しいケースも多い現状をどうしていくのか。家庭によっては保護者の意識の向上が望まれるものの、中学校教育の範疇ではないため、悩むところである。
集育 3	防災・減災教育の推進 ・「防災・減災教育カリキュラム」の作成とその実践 ・区や地域等と連携した防災減災教育と活動の展開	・「防災・減災教育カリキュラム」を作成し、区や地域や小学校などと連携した活動を行う。	B	11月19日水曜日に「防災学習」を実施。地域ごとに町会長・防災リーダーらと顔を合わせ、救命救命、消火訓練等を区役所・消防署の協力のもと実施予定である。	防災・減災を生徒とともに考え、実際に災害が起きた時に、自助・共助・公助の意識を持つように指導していく。	B	今年度も平日に実施し、関係諸機関と連携はできた。	次年度も平日に実施し、全校生徒が防災学習に取り組めるようにする。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった

3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策

目標1 安全・安心な教育の推進

【施策② 豊かな心の育成】

担当	取組内容	指標	2学期			3学期		
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
道徳	1 道徳教育の推進 ・教科書を中心とした考え議論する道徳教育を実践 ・家庭や地域などと連携したボランティア活動や福祉体験の実施、生徒の実情に応じた出前授業プログラムの実施	・年間の授業を通して、最終アンケートの項目「自分なりに深めることが出来た」の数値を50%以上とする。 ・福祉体験学習を年に1回以上行う。	B	教科書を中心とした道徳教育を実践できている。また、1年生は福祉体験学習、2年生は障がい者理解教育～ゆめ風プロジェクト～を行う予定である。	引き続き道徳の授業を充実したものにしていこう。	B	概ね予定通り進めることができた。また内容から派生する話題を提供しつつ、興味関心の持てる授業を心がけていた。	言葉の意味や背景まで視点を広げ、幅広く教材を深め、考える時間を設けるよう引き続き取り組んでいきたい。
キャリア	2 キャリア教育の充実 ・職場体験学習・職業講話や職場見学・産学連携	・職場体験学習や職場訪問学習を通じて、働くことの意義や大変さを学ぶ。	B	1学期において、2年生では職場体験学習を実施し、働くことの意義や大変さを学ぶことができた。	3学期は、1年生が職場訪問学習を実施する予定である。	B	1年生において「職場訪問学習」、2年生において「職場体験学習」を行い、進路を見据えた学習を行うことができた。	次年度も引き続き、3年間を通じた進路学習を行っていききたい。
人担	3 人権を尊重する教育の推進	・人権教育・啓発推進計画に基づき、計画的、系統的な人権教育を実践し、取り組みの進捗を評価する。	B	各学年において、関係機関と連携を取り、計画に基づき取り組みを進めている。	引き続き、各学年の取り組みを引継ぎながら充実したものにしていく。	B	各学年において、計画に基づき取り組めた。	講演会、交流会に向けての参加を促していきたい。
特支	4 インクルーシブ教育システムの充実と推進 ・特別支援教育サポーター、インクルーシブ教育推進スタッフの活用 ・巡回相談の活用による、実施学校園における支援体制の構築と強化 ・教職員、児童生徒、保護者等に対し、発達障がいを含む障がいに関する基礎的な知識及び理解の推進	・合理的配慮の観点をふまえた「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、年に1回以上見直しを行う。 ・巡回相談の活用やケース会議の実施を通して、校内支援体制を整備、充実させる。	B	特別支援教育サポーターや学年の先生方のおかげで教室内での配慮や抽出授業ができていた。また、巡回相談の活用を行い、生徒の支援の仕方の助言もいただいた。	今後も継続して行い、個に応じた支援を続けていきたいと考えている。	B	入り込みのサポートや抽出での学習を行うなど、個に応じた支援ができた。来年度、新体制でも継続した支援が行われるように考えていきたい。	新入生を迎え、新体制での支援方法の確認を行い、継続して支援できるようにしていきたい。
音楽	5 音楽・吹奏楽、芸術全般に親しむ機会の創出	・年に1度以上、音楽や古典芸能などの芸術に親しむ機会を設ける。	B	7月上旬に「演劇」をテーマとして芸術鑑賞会を行った。多くの生徒が興味・関心を持ち、楽しみながら鑑賞することができ、事後アンケートではほぼすべての生徒が「とても楽しかった」「楽しかった」と答えていた。	来年度は「音楽・パフォーミング・アーツ」をテーマに実施する。様々な演目から選択ができるよう、計画を立てて早めに取り組むようにしたい。	B	多くの生徒が興味・関心を持ち、楽しみながら鑑賞することができた。生徒が体験できるワークショップも充実しており、より演劇を身近に感じることができた。鑑賞会であった。	様々な演目から選択できるよう、計画を立てて早めに取り組み、生徒の目線に立って演目を選択できるようにしたい。
総務	6 校内美化と健康管理の推進	・委員会活動を中心に、健康管理を行う。また、日々の清掃活動を通して学習環境の整備を行う。	B	保健委員の生徒を中心に、教室内の換気と室温設定等健康管理を行っている。また、日々の清掃の他に月1回特別区域清掃を行い、学習環境の整備に努めている。	今後も継続して行っていく。	B	保健委員会の生徒を中心に、教室内の環境管理や生徒の健康管理を行うことができた。特別区域清掃も月1回程度実施でき、校内美化に努めた。	生徒数の関係で、日々清掃できない特別教室等は担当教員や部活動に任せてしまっている現状がある。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A：目標を上回って進捗している B：目標どおりに進捗している C：取り組んだが目標通りに進捗できなかった D：ほとんど取り組めなかった

3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策

目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上

【施策④ 誰一人取り残さない学力の向上】

担当	取組内容	指標	2学期			3学期		
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
教務 1	学力の向上① ・全国学力・学習状況調査の結果分析から見えてきた本校の課題の一つである「学習意欲の向上」を十分図れる授業の実践	・校内調査の「授業はわかりやすく楽しい」に対する肯定的回答のポイントを向上させる。 (R6 91.4%)	—	年度末の校内調査後に評価する。	教員側の一方的な授業にならないように心がけ、生徒が質問をしやすい環境をつくる。	B	肯定的な回答が91.2%と前年度から0.2ポイント下降した。しかし、1年生では肯定的な回答が96%を超えており、教員の授業研究と根気強く生徒に向き合う姿勢が要因であると考えられる。	来年度も肯定的な回答が90%を超えるよう、丁寧に生徒に向き合っていく。
教務 2	学力の向上② ・言語活動の充実をより一層進め、チャレンジテストなどへの記述式問題などへの意欲の向上	・チャレンジテスト設問別解答データの記述式問題を府平均と比較する。 (R6 2年 1.28 1年 1.08)	—	チャレンジテスト後に評価する。	一問一答だけでなく、生徒が自分で説明する機会を授業で増やす。	B	3年 1.28→1.36 2年 1.08→0.93 2年生で下がったが、3年生で上昇した。学年が上がることによって文章を書く経験が増え、記述問題にも慣れていくことが要因だと考える。	引き続き、教科・学年で、生徒に書く力を身につけさせる取り組みを進めていく。
教務 3	学力の向上③ ・習熟度別少人数授業の実施	・習熟度別少人数授業に関する生徒アンケートで「授業がわかる」という肯定的回答の割合を50%以上とする。	—	年度末の校内調査後に評価する。	国語や英語でも可能な限り習熟度別少人数授業を展開していく。	A	授業がわかるという肯定的な意見が国 87.7% 数 91.0% 英 75.7% 各教科で50%を超えた。	来年度も引き続き可能な限り習熟度授業を展開していきたい。
研修 主 担 4	「主体的・対話的で深い学び」の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進に係る研修会・研究協議会への参加 ・主体的・対話的で深い学びの推進に向けた校内研修の充実 ・個に応じた指導の充実のための学習教材データ配信の有効活用	・主体的・対話的で深い学びの推進を図る研修に参加を推進する。 ・学習教材データを活用して、個に応じた指導をする。	B	メンター研修として百問繚乱の使い方研修を1学期に行ったが、メンティーだけでなく、すべての教職員対象の研修として実施することができた。	2学期、3学期もICTを中心とした研修を1回ずつ行う予定である。	B	各教科・分野で全市研究会に参加することができた。校内でも研究授業を行うことができた。	次年度も継続して、研修会等に積極的に参加する。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった

3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策

目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上

【施策④ 誰一人取り残さない学力の向上】

担当	取組内容	指標	2学期			3学期		
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
英語	1 英語教育の強化 ・小中連携して効果的な英語教育の推進 ・研究討議を行うシステムの構築・効果的な校内研修の実践	・英語力調査で大阪市の平均点を上回る。 ・CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を昨年度同等まで引き上げる。	—	10月24日の英語力調査実施後に評価する。	授業中において4技能をバランスよく取り入れるようにする。	B	授業中において4技能をバランス良く取り入れたことにより、10月24日実施のGTECの結果では、大阪市の平均点を上回り、CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)も昨年度同等の結果を出せた。	授業中において4技能をバランス良く取り入れ、こどもたちの英語力を上げる指導を心掛ける。
技術	2 プログラミング教育の推進 ・プログラミング的思考の育成に向けた授業づくり	・アルゴリズムなどプログラミングに必要な思考力の育成を目標に、3年生においてプログラミング教材を活用した授業を8時間以上行う。	—	3年生の前半は情報の基礎に関する内容を中心に授業をしてきた。後半は演習中心の授業を予定している。	10月後半からロボット教材と、スクラッチタイプのプログラミング演習を実施する予定である。	C	学習者端末でプログラムを考え組み立て、教材ロボットを動かすなどの演習は実施できた。サンプルプログラムを主としたものであった。自分たちで一から考えてプログラムを作る作業にもう少し時間を確保する必要があった。	作品をみんなでも評価しあうように取り組ませたい。
外担	3 多文化共生教育の推進 ・授業等における日本の文化や異文化についての体験的な学習の推進	・授業等で、日本の文化や異文化、日本における外国人の方との共生について考える機会を設け、理解する。	—	現在は実施できていない状況である。	3学期に、日本の文化や異文化、日本における外国人の方との共生について考える機会を設ける予定である。	B	3学期中に授業を行う予定である。	次年度も継続して、学習指導に組み込んでいきたい。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった

3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策

目標2 未来を切り拓くための学力・体力の向上

【施策⑤ 健やかな体の育成】

担当	取組内容	指標	2学期			3学期		
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
保体 1	子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実 ・区や地域・家庭との連携により、子どもが運動やスポーツに親しみ、楽しむ機会の確保	・校内アンケートにおいて、「体育の授業以外で積極的に運動を行い、運動の楽しさや喜びを味わうことができたか」という質問に対し、肯定的回答を80%以上にする。	—	年度末の校内調査後に評価する。	授業等で、体を動かす楽しさや喜びを伝え、自ら運動に親しめるようにしていく。	B	「運動やスポーツをすることが好きだ」という肯定的回答は、83.2%であった。中でも1年生が89.4%と一番高い結果となった。授業の中でも比較的体を動かすことに対して積極的な面がみられた。	学年が上がるにつれて、自ら体を動かすことに消極的になってくる傾向があるので、部活動だけでなく、授業の中でも地域等で実施している取り組みを把握し伝達していきたい。
保体 2	健康に関する現代的課題への対応	・学校アンケートで「朝食は毎日食べている」という質問に対する肯定的回答の割合を前年度(90.0%)と同じ、または前年度より増加させる。	—	年度末の校内調査後に評価する。	朝食の大切さをこれからも伝えていく。	C	今年度の学校アンケートで肯定的回答の割合は82.4%と前年度より減少した。1、2年は80%、3年は87.9%であった。	食育通信や保健体育や家庭科の授業等で、朝食の大切さに触れているが、機会が少ないので、委員会活動等を通して、年間を通して朝食への意識づけを高めていく必要がある。
給食 3	食育の推進 ・「食に関する指導の全体計画」ならびに「食に関する指導の年間指導計画」をもとに実践	・月1回、給食や食に関する通信を発行する。	B	指標通り実施できている。	より残食が減るように取り組んでいく。	B	各学年、残食が減るように昼食指導に取り組んだ。	来年度も引き続き取り組んでいき、給食に対して
給食 4	中学校給食の充実に向けた総合的な取組	・校内放送を利用し、週1回給食の献立や食材について紹介する。	B	指標通り実施できている。	引き続き給食への関心が高まるよう取り組んでいく。	B	文化委員の活動を通して、指標通り実行することができた。	来年度も引き続き取り組んでいき、給食への関心が高めていく。
性教育推進委 5	子どもの心身の発達に即した性教育の推進	・各学年とも、それぞれの指導計画にそって4時間程度実施する。	B	指標通り実施できている。3年生は1学期に実施済み、1・2年生は年度後期に実施予定。	1年生については11月に4時間程度実施予定である。	B	全学年とも、指標通り実施することができた。	時代の変化とともに少しずつ変わる性についての正しい情報をしっかりと生徒に伝えながら、来年度の生徒の実態に応じた性教育を行えるよう取り組んでいきたい。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった

3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策

目標3 学びを支える教育環境の充実

【施策⑥ 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

担当	取組内容	指標	2学期			3学期		
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
CIO 1	ICTを活用した教育の推進 ・全小中学校に整備された1人1台端末等のICT機器を活用した授業の実施	・学習活動の場面においてICT機器を活用することができる状況を作る。 ・学期末のアンケートにおいて「学校は、積極的にICTを取り入れている。」の肯定的意見の割合を85%以上とする。	—	各教科においてデジタル教科書やプリントなどを投影し授業が行われている。調べ学習やクラスルームを通じた課題や資料の提供が行われている。	今後も継続して活用を促進していく。 達成状況はアンケート結果をもって行う。	A	学校アンケート(生徒)において「学校は、積極的にICTを取り入れている。」の肯定的意見の割合を95%で目標を達成できた。	次年度以降も学習活動で活用できるように継続して取り組みを進める。
教務 2	シンクタンク機能の充実 ・「waku×2.com-bee(大阪市の授業のスタンダード)」を活用した教員の指導力向上の取組の実施	・waku×2.com-bee(大阪市の授業のスタンダード)(東書ライブラリーを含む)を活用した教員の割合を昨年度よりも1ポイント超える。	—	3学期に校内アンケートを実施し評価する。認知されてきているものの活用している教員はまだ少ない。	活用方法等を互いに共有できる場を作る。	C	十分活用した教員は15%、少しは活用したは30.7%、一度も使用しなかった61.5%だった。waku×2.com-bee使用率は低いがCanvaを用いた授業展開の研修を実施するなど、他のツールを使った教員間の研修は行っている。	今後も指導力の向上を図るための取り組みを計画する。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった

3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策

目標3 学びを支える教育環境の充実

【施策⑦ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

担当	取組内容	指標	2 学期		3 学期			
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
研修 主担	1 若手教員の指導力向上と校内研修の支援	・メンター研修を年3回以上実施する。	B	1学期に1回、10月後半に2回目のメンター研修を行う予定である。	授業力向上のために、ICT研修を行っている。	B	1学期に1回、2学期に1回と研修を行うことができた。メンターの授業に入り、フィードバックすることができた。	次年度もICTの新しい使い方を研修として取り上げていく。
C I O	2 校務負担を軽減するための環境整備 ・校務支援ICTの機能の十分な活用による学校教育の質の向上と学校経営の効率化 ・学校ホームページや保護者メールで保護者、地域へ情報発信	・授業・校務において必要な機器等を計画的に配備できるように準備する。 ・学校のWebページにおいては、日記以外においても部活動など更新を行う。	C	不具合が生じている機器やHDMIケーブルの接続不良等が生じている問題点はある。	機器については、予算との兼ね合いもあるが、授業に支障が出ないように対応していきたい。部活動に関する内容は小学生向け情報として活用できるように、年度内に更新したい。	B	ケーブルの接触不良などで、使用できないケースも発生したが、学習活動に大きく影響がでないように対応できた。新Webページへの移行は終えることができ、日々の情報発信は行うことができてきている。	普通教室1部屋分について吊り型でプロジェクタの設置を目指す。また経年劣化がすすんでいるためマグネットスクリーンも更新を進めていきたい。
小中 連携	3 小中一貫教育の充実	・小中連携の授業や研修などを年1回以上行う。	—	6月20日に小学6年生を対象に、中学校で部活動体験を実施した。	2月に中学校から出前授業体験を実施する予定である。	A	小中交流会として、授業体験・部活動体験を実施した。	次年度も今年度の形を続けていく。
管理 職	4 働き方改革の推進	第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を40%以上にする。(R6 35.0%)	B	勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が8月の時点で55%である。(昨年度8月時点は50%)	2学期以降は学校行事やテスト、進路指導など業務も増えるが、業務のスリム化や会議の短縮を進める。	A	勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が47.62%(1月時点)で、35%以上に達成した。(R5 47.8%, R6 35%)	一年間の教育活動で、業務の多い時期には、業務の偏りのないよう、業務担当や配置を見直していきたい。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)								
評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった								
3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策								
目標3 学びを支える教育環境の充実								
【施策⑧ 生涯学習の支援】								
担当	取組内容	指標	2学期			3学期		
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
図書	1 学校図書館の活性化 ・知的好奇心を高める環境づくりをすすめ、授業での活用や補充学習での使用を促進する。	・図書館の来室者数や貸出図書数を昨年度を上回わ	B	毎週火曜日に実施の「ブックリユース」は昨年40冊弱の廃棄図書削減に対し、今年度は10月現在で82冊を数える。新刊の案内を通して、今後の来館人数増加に期待したい。	教科でのビブリオバトル開催や、新刊の案内、ブックリユースを通して来館者数を伸ばす手立てとする。	B	毎週火曜日のブックリユースにより、廃棄図書の削減に至る。年間累計157冊。また適宜新刊作品の案内を通して、興味関心を高めた。	廃棄を減らすことのできたブックリユースを継続し、興味関心の高まる蔵書選定の情報を集めていく。

大阪市立柴島中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (様式2 目標別シート)								
評価基準 A: 目標を上回って進捗している B: 目標どおりに進捗している C: 取り組んだが目標通りに進捗できなかった D: ほとんど取り組めなかった								
3つの「最重要目標」と目標達成に向けた施策								
目標3 学びを支える教育環境の充実								
【施策⑨ 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】								
担当	取組内容	指標	2学期			3学期		
			達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	今後への改善点	達成状況 A~D	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	次年度への改善点
社会	1 大阪の歴史・現状・文化についての学習 ・学校行事や「総合的な学習の時間」における大阪の文化や伝統についての体験的な学習の推進	・大阪・関西万博の見学、大阪体験などの行事や地歴授業を通して、地政学を交えて歴史や文化の視点を養う。	B	大阪・関西万博見学の展示発表を行った。また教科の導入で時事問題に触れることで、家庭内の会話が増えたとの保護者の声を複数耳にした。	歴史分野の世界遺産学習を通して、大阪の古墳文化、明治期の自由民権運動での大阪会議などに触れる。	B	大阪関西万博見学はじめ、大阪体験、職場訪問、職場体験が在版企業の存在をダイレクトに感じ、体験を通して自らの将来の視点を持つ機会となった。	教科を通して、大阪の未来構想にも興味関心を持たせ、市民教育の足掛かりとしたい。
集育	2 登下校時の子どもの安全確保	・学期に1回、全校集会にて不審者情報や登下校の注意喚起を行う。	B	部会・職員会議での具体的な検討はしていないものの全校朝礼での講話において、交通安全ならびに不審者対策などについては、生徒に啓蒙を図った。	不審者情報など地域の情報があれば全校集会等で生徒に連絡していく。	B	全校集会では、学期に2回、不審者情報、登下校の注意喚起を行った。	次年度も、学期に2回以上連絡していく。
キャリア	3 産業界との連携	・校区内外の企業や公的機関等と連携し、職場訪問ならびに職業体験を実施する。	B	1学期において、校区内外の企業や公的機関等と連携し、2年生では職場体験学習を実施することができた。	3学期は、1年生が職場訪問学習を実施する予定である。	B	1年生において「職場訪問学習」、2年生において「職場体験学習」を行い、企業や公的機関等と連携した学習活動を行うことができた。	次年度も引き続き、企業や公的機関等と連携した学習活動を行いたい。
研修主担	4 地域・区域における生涯学習推進と学校園とのネットワーク ・はぐくみネット、学校元気アップ地域本部事業ならびに生涯学習ルーム等との連携	・テスト前の勉強会(柴スタ)を地域と連携して行い、参加する生徒数を昨年度以上とする。	B	テスト前の学習会(柴スタ)など、元気アップコーディネーターの方々を中心となって実施できている。	今後も地域と協働の力をもち、学習会等を実施していきたい。	B	学力向上支援サポート事業に合わせて効果検証対象教科(理科)を含め計10回実施することができた。全教員も計画的に進めることができた。	次年度も計画的に実施していく。